

始良地区茶園管理ごよみ

一般防除				重点作業		
月別	旬別	病害虫基幹防除		作業名	作業時期	摘要
		防除時期	病害虫名	薬剤と濃度、使用日数		(日)は、摘採前日数
1	全			機械点検	一番茶摘採前まで	摘採期の刈りやすり合わせなど点検を十分に防除機については、農薬の飛散軽減対策を徹底
				春肥1回目	1月下旬	魚糞入りソイル配合 有機質肥料を主体に土と混和
2	上			補完防除	2月上旬～末	クワシロカイガラムシ防除 ブルーMC 1000倍 (一番茶前30日) 容器の管理はしっかりと
	中			春の園摘え	2月中旬～3月上旬	深くないように注意、浮き葉や遅れ芽の整枝(古葉混入防止)
3	下			防霜対策	2月下旬～3月上旬	事前点検・試運転は十分に センサー位置確認 防霜開始 設定温度:防霜ファン 2℃、スプリンクラー 0℃から
	上	上旬～中旬	カンザワハダニのみ サビダニ混発	ハロックフロアブル…… 2000倍(14日) ダニゲッターフロアブル… 2000倍(7日)	春肥2回目	2月下旬 新ボンデル入り茶配合 速効性の肥料施用
4	中			芽出し肥	3月中旬	フレッシュグリーン3号 緩効性窒素施用による作業省力化
	下			補完防除	3月中旬～下旬	ハマキムシ類 ハマキコン-N (ロープ30～50m/10a) 支柱等を立て、対象作物の上部に張り渡す
5	上			液肥	3月下旬	液肥(摘採2週間前まで)
	中	一番茶摘採期			補完防除	萌芽～1葉期 摘採直後
6	下			被覆	摘採7～9日前	直接掛けて中6～8日間被覆
	上	クワシロ第一世代 ふ化最盛期	クワシロカイガラムシ チャトゲコナジラミ	アブロードエースフロアブル 1000倍(14日) ※チャトゲのみ防除の場合は裾刈りを行い、 10a当400g散布(ダニ噴口)	一番茶摘採	4月中旬～5月上旬 茶工場と打ち合わせて計画摘採に務める
7	中			中切り更新	摘採後	出来るだけ早く行い新芽の生育期間を確保 更新後は石灰窒素(ティーチャーエースなど)施用
	下	萌芽～1葉期	炭そ病、もち病 ※黒葉腐病 ウンカ、スリップス	ダコニール1000……1000倍(10日) ※黒葉腐病は700倍 ウララDF ……………1000倍(7日)	整枝	摘採後 1回目:摘採5日以内、2回目:摘採17～22日後 二番茶芽を切らないように遅れ芽のみ軽く整枝
8	上			補完防除	ハマキムシ類第一世代 幼虫発生期	ハマキムシ類 ハマキ天敵……2000倍(前日) ※展着剤加用
	中			防風垣設置	4月下旬～5月中旬	幼木園では、防風ソルゴーを播種 10a当たり2kg程度
9	下			補完防除	1葉期	チャノホンガ発生時 カスケード乳剤 4000倍(7日)
	上			被覆	摘採6～7日前	直接掛けて中5～6日間被覆 遮光性の高い資材は、葉焼けに注意
10	中			二番茶摘採	6月上旬～下旬	一番茶摘採から45日前後
	下	萌芽～1葉期	ウンカ、スリップス ハマキムシ類	テツパン液剤…………… 1000倍(3日)	深刈り更新	摘採後 出来るだけ早く行い新芽の生育期間を確保、深くなりすぎないように注意。更新後、石灰窒素(ティーチャーエースなど)施用
11	上			整枝	摘採後	1回目:摘採5日以内、2回目:摘採14～16日後三番茶芽を切らないように遅れ芽のみ軽く整枝
	中			三番茶摘採	7月中旬～下旬	二番茶摘採から35日後。1節程度上げて摘採し、秋芽伸育を良くする
12	下			最終摘採	7月末	最終摘採は7月末までに。充実した秋芽を確保する。
	上	最終摘採・整枝 直後～3日後まで	輪斑病	カスミンボルドー… 500～1000倍(14日)	秋肥1回目	最終摘採後 骨粉入りソイル茶配合
1	中	萌芽～1葉期	ウンカ、スリップス、 マダラカサハラハムシ カンザワハダニ	コテツフロアブル…………… 2000倍(7日)	堆肥・深耕	8月下旬～9月中旬 完熟牛ふん主体堆肥 10a当たり1t以内 深耕を行い、土壌の通気性・透水性の改善
	下				秋肥2回目	9月上旬 銘茶秋月
2	上			補完防除	秋芽4～5葉期	網もち病常発園 クプロシールド 1000倍(3日)
	中	3～4葉期	炭そ病、網もち病、 もち病、新梢枯死症 ウンカ、スリップス、 チャトゲコナジラミ	ダコニール1000……1000倍(10日) 混用 インダーフロアブル 5000倍(7日) ガンバ水和剤…………… 1500倍(14日)	液肥	9月中旬 液肥施用
3	下			補完防除	9月下旬	ハマキムシ類、シャクトリムシ、 ホソガ、チャトゲ多発時 ディアナSC 5000倍(摘採前日)
	上			秋肥3回目	10月上旬	茶のきずな秋1号
4	中			秋冬番茶摘採	10月上旬～中旬	秋の本整枝時期を考慮して計画的に 秋整枝が遅れないように 平均気温が20℃以下になった時期(10月15日を目処に終える)
	下			秋整枝	10月上旬～中旬	深さに注意し、葉層は8cm以上確保する 中晩生品種:10月10日前後、早生品種:10月15日前後までに
5	上			防霜施設点検	10月末～2月	防霜施設の保守・点検・修理
	中			秋冬期防霜	初霜期～ 12月中旬	早生、更新園を中心に、12月20日頃まで

米国輸出向け防除			
月別	旬別	病害虫防除	
		防除時期	病害虫名
1	全		
2	上		
	中		
3	下		
	上	上旬～中旬	カンザワハダニのみ サビダニ混発
4	中		
	下	中旬～下旬	ハマキムシ類
5	上		
	中		
6	下		
	上	クワシロ第一世代 ふ化最盛期	クワシロカイガラムシ チャトゲコナジラミ
7	中		
	下	萌芽～1葉期	炭そ病、もち病 ウンカ、スリップス
8	上		
	中		
9	下		
	上	最終摘採直後	輪斑病
10	中	萌芽～1葉期	炭そ病、輪斑病、 もち病、新梢枯死症 ウンカ、スリップス、 マダラカサハラハムシ カンザワハダニ
	下	3～4葉期	炭そ病、網もち病、 もち病 ウンカ・スリップス
11	上		
	中	4～5葉期	網もち病(常発園)
12	下	下旬	ハマキムシ類、 シャクトリムシ、ホソガ、 チャトゲ多発時
	上		

米国輸出向け薬剤			
殺虫剤	殺菌剤	除草剤	
アクタラ顆粒水溶剤	コルト顆粒水和剤	デルフィン顆粒水和剤	
アグリメック	サブリナフロアブル	トアロー水和剤CT	
アタックオイル	サムコロフロアブル10	ハチハチ乳剤	
アフーム乳剤	スタークル顆粒水溶剤(アルバリン)	ハーベストオイル	
アブロード系(3剤)	スピノエースフロアブル	ハマキコン-N	
ウララDF	ダニゲッターフロアブル	ハマキ天敵	
エクシレルSE	ダニサラバフロアブル	ハロックフロアブル	
エスマルクDF	ダントツ水溶剤	ファルコンフロアブル	
オマイト乳剤	チューリサイド水和剤	ブルーMC	
カネマイトフロアブル	チューンアップ顆粒水和剤	ボタニガードES	
キラップフロアブル	ディアナSC	モスピラン系(3剤)	
グレーシア乳剤	テツパン液剤		
コテツフロアブル	テルスター系(2剤)		
ICボルドー-66D	クプロシールド	フジローフロアブル	
Zボルドー	コサイド3000	プリントフロアブル25	
アミスター-20フロアブル	コサイドボルドー	フロンサイドSC	
インダーフロアブル	サンボルドー	ヘニドー水和剤	
カスミンボルドー(カッパ-シン水和剤)	スコア顆粒水和剤	ボルドー水和剤	
キュプロフィックス40	ドイツボルドー-A	ムッシュボルドー-DF	
クブラビットホルテ	ドイツボルドー-DF		
除草剤	タッチダウンIQ	ラウンドアップ	ラウンドアップマックスロード

本県奨励品種で防除が必要な病害						
品種名	病害名	炭そ病	もち病	網もち病	輪斑病	赤焼病
くりたわせ			冷夏時 多雨年で 発生しやすい	多雨年で 発生しやすい		
ゆたかみどり					雨大時 発生しやすい	
さえみどり						
あさつゆ						
あさのか						
やぶきた						
はるもえぎ						
かなやみどり						
おくみどり						
はるみどり						

茶園は必ずしも発生しない。10月中旬頃に発生が見られる。

- ### 農業使用上の注意点
1. 農薬の使用基準(適用作物、希釈倍数、使用時期、使用総回数)を守る。
なお、本表の記載内容は、予告無しに変更される場合があるので、散布時には必ずラベルを確認するとともに注意事項をよく読む。
 2. 使用回数は、摘採後から次の摘採までの使用回数で、秋整枝や中切りなどの更新は摘採と見なす。
 3. 同じ農薬・系統は、連用を避け、できる限り年1回使用とする。
 4. 風向き等を考慮し、周辺地域への飛散防止を徹底する。
 5. 混用の順番は、①展着剤→②乳剤→③水和剤

- ### 施肥資材使用の注意点
- 出所のはっきりしない堆肥及び施肥資材は使用しない。
 - 新植・改植の苗導入の際は必ず、技術員へ相談を。

- ### 乗用型管理機械取り扱い上の注意
- トレーラー及び運搬車を車道、歩道上に放置しない。
 - 移動の際は、通行に十分な配慮を行う。
 - 枕地を3m程度設け、一般道路での旋回をしない。

- ### お知らせ旗の取り組み
- 摘採10日前にお知らせ旗を設置し周知しましょう。

○生産履歴の記帳は正確に。 ○経営改善のため第三者認証に取り組みましょう。 ○スプリンクラー使用時は、道路へ水が飛散しないように注意する。

*点線囲みは補完防除